

GK情報レポート

【2010年発行】

vol. 25

夏号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

1. 第25回マグネシウム工業調査団に参加して
2. カドミレス黄銅棒について
3. グループ会社 横浜伸銅株式会社紹介
4. GKギャラリー 109回 GK会
5. GK沿革(23回)『厚木マンションの建築』
6. 相場情報『2010年第3四半期見通し』

皆様でご覧下さい。

回
覧
印

※バックナンバー (Vol.1~24) をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. 第 25 回マグネシウム工業調査団に参加して

第 67 回 IMA（国際マグネシウム協会）国際会議と韓国訪問

5月16日（日）から21日（土）まで香港、韓国を訪問しました。大きな手ごたえを感じた有意義な出張でした。

1、 第 67 回 IMA（国際マグネシウム協会）国際会議出席

5月16日（日）～18日（火）まで香港で行われた IMA の国際会議に、日本マグネシウム工業調査団の一員として出席しました。

国際会議には 22 カ国から約 300 名の方が参加しました。期間中、技術発表を含め 26 件の講演が行われ、またそれとは別に製品などの説明のため、36 社が展示ブースを出しました。マグネシウムの持つ数々の利点—資源の豊富さ、リサイクルの容易さ、実用金属中一番の軽さ、人体への無害さ等—に対する関心と期待の高さを感じさせられました。日本マグネシウム協会も展示ブースを出し、当社を含め 8 社が展示ブースに参加しました。当社は AZ61 の加工事例の紹介のためサンプルを展示し、パンフレットを配りました。

マグネシウム板材というと AZ31 しか見たことの無い人が多い中で、AZ61 の板とその板を使って AZ31 と同じようにプレス加工ができることに驚く人が多くいらっしゃいました。

日本に帰ってから海外からいくつかの引き合いを頂きました。今後は輸出も増やして行きたいと考えています。



日本マグネシウム協会の IMA での展示ブース



IMA 晩餐会

2、 韓国マグネシウム企業訪問

韓国では、マグネシウムダイカスト製品を作っている新昌電機、板材を研究開発しているポスコ、マグネシウムを使った製品開発を行っている中小企業を支援する施設である JAMIC (Jeonnam Advanced Materials Industrialization Center) を訪問しました。韓国では政府も、今後大きな伸びが期待できるマグネシウムに対する支援を積極的に行っており、日本と違って支援の手厚さが非常に印象的でした。



JAMIC にて

記者 権田源太郎

2. カドミレス黄銅棒について

環境問題が世界的な課題となっており、環境に負荷をかけないものを使い、環境に負荷をかけないつくり方をするのが世界的な課題となっています。

RoHS 指令は、電気・電子機器における特定有害物質の使用制限に関する欧州連合（EU）の指令です。使用を制限される物質は6種類（鉛、水銀：1,000ppm以下、カドミウム：100ppm以下、六価クロム：1,000ppm以下、ポリ臭化ビフェニール、ポリ臭化ジフェニルエーテル）。

2003年2月発効、2006年7月1日施行。日本の企業が輸出する製品にもこのRoHS指令が適用されています。EUのRoHS指令に触発されるように各国版でRoHS指令とほぼ同じ内容の指令が施行されています。

- ・ 2006年7月1日施行 日本 『電気・電子機器の特定化学物質の含有表示(J-MOSS)』
- ・ 2007年7月1日施行 カリフォルニア版 RoHS 指令
- ・ 2008年1月1日施行 中国版 RoHS 指令

また EU は有害物質規制の考えを更に進め、2007 年 6 月に化学物質の総合的な登録、評価、認可、制限を規制する制度『REACH 規制』をスタートさせました。REACH 規制により EU で化学物質を年間 1 トン以上製造又は輸入する事業者に対し、登録手続が義務付けられました。

2008 年 6 月 1 日に登録開始。日米欧の電気・電子業界は情報開示基準を統一することで合意しました。製造メーカは環境負荷を低減する技術開発が求められました。

環境問題が世界的課題となっており地球環境にクリーンな製品づくりによるイメージアップ、環境負荷低減の技術力の証明、EU への販路拡大を見込み、カドミレス黄銅棒の需要は高まっています。

日本では月に約 15,000t の黄銅棒が製造されています。そのうちカドミレス黄銅棒は約 40%に及び、需要の高さが伺えます。当社で製造しているカドミレス黄銅棒の需要も年々高まり、現在では生産量の 10%がカドミレス黄銅棒になりました。

当社で製造販売している太物の黄銅棒を使用する電子顕微鏡などの光学メーカー、液晶パネル製造装置メーカーなども黄銅棒のカドミレス化を進めております。

今後も他業界での黄銅棒のカドミレス化が進むことが予想されます。

権田金属の管理体制

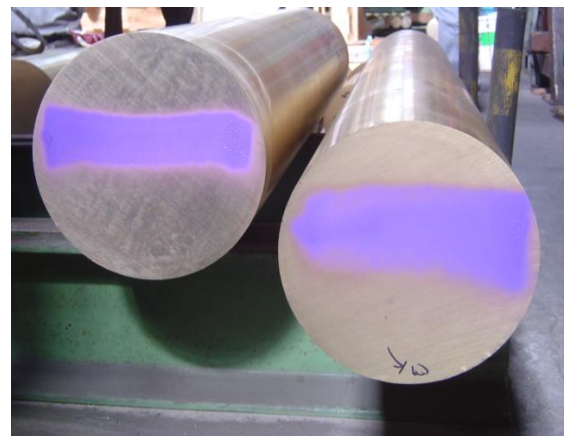
①原材料成分の管理

黄銅棒のカドミウム含有量を RoHS 指令の規制値 100ppm 以下にするには、使用する原材料中のカドミウム量を制限する必要があります。

当社では実際に原材料を使用する前に成分分析値を把握し、その分析結果を基に RoHS 指令の要求する化学成分に合わない原材料は使用しておりません。

②製造ラインでの管理

電気炉溶解後の分析結果で『カドミノン』の社内判定基準に合格した鑄造ビレットは、従来の一般鑄造ビレットと区別するために鑄造ビレットの端面に紫色の塗料を塗布します。そして各製造工程の作業終了ごとに仕掛品の端面に紫色の塗料を塗布し、最終製品となるまで端面の紫色で識別管理を行っています。



記者 吉田・工藤

3. グループ会社 横浜伸銅株式会社

横浜伸銅(株)は、東神奈川を拠点に 1961 年に権田金属工業(株)と福田地銅店(現メタルポート(株))の関係者が共同出資して設立した非鉄金属流通問屋です。(現在は権田金属のグループ会社) 主に神奈川県全域・西東京エリアのユーザーを対象に販売しており、ユーザー様のあらゆる要望に柔軟に対応しております。営業は営業部長を中心に 5 名、倉庫・配達・事務を含めて総勢 15 名です。2006 年 3 月から権田金属工業(株)の社長である、権田源太郎が横浜伸銅(株)の社長を兼務しており、今後は権田金属との連携を更に強化し、なお一層のサービス向上に努めてまいります。



★ ユーザー様のニーズに素早く対応★

ユーザー様の短納期のご要望にも柔軟に対応しております。又、従来からの棒・板などの切断販売に加え、アルミのフライス加工にも力を入れております。フライス加工品でも翌日納入も可能で、ユーザー様からは素早い対応に非常に高い評価を頂いており、販売量も順調に増加しております。主要な配送エリアは、東京の都心～鶴見・港北エリアを始め、神奈川区～横須賀エリア、藤沢・茅ヶ崎・平塚～相模原エリア・海老名エリアですが、このルート以外にも幅広く配送いたしております。

主な取扱い製品

形状	品種	材質	サイズ
丸棒	銅	C1100	3～400Φ
		C1020	3～400Φ
ブスバー		C1100	3～20 厚・10～200 巾
板		C1100・C1020	365×1200
			1M×2M
			1250×2500
パイプ	真鍮	C1220T他	全サイズ
		C2700T	
丸棒	真鍮	C3604	3～400Φ
		カドミノン	3～400Φ
丸棒・板	燐青銅	C5191 他	全サイズ

板	アルミ	A5052・A1050 他	1M×2M・1250×2500 他
丸棒		A5056・A2017 他	全サイズ
押し出し型材		A6063	
板	ステンレス	SUS304・SUS430 他	全サイズ
丸棒		SUS304・SUS303 他	
型材		SUS304・SUS316 他	

上記の表以外にも、幅広く豊富な品揃えをしていますので、
 まずはお問い合わせを!!

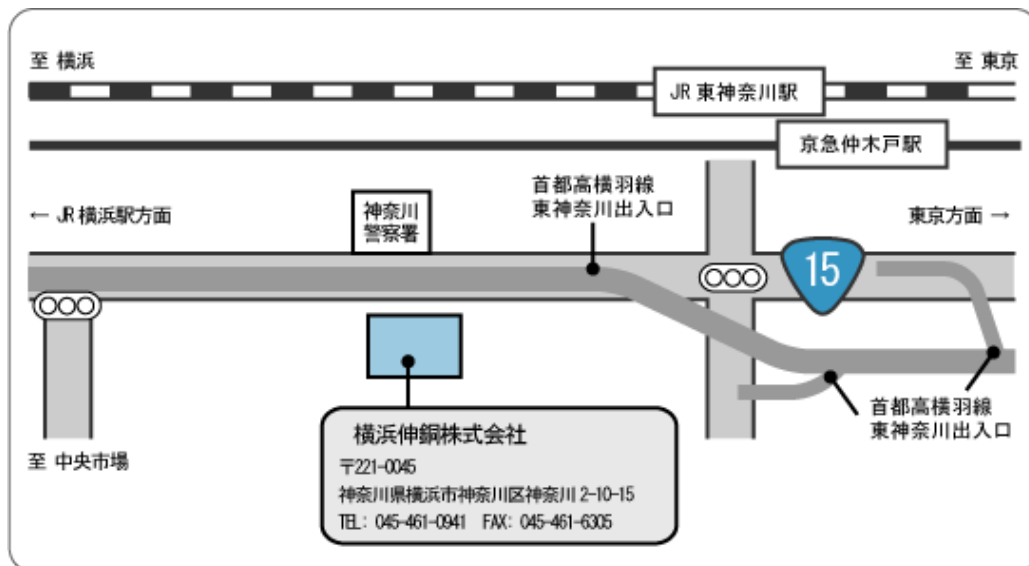
神奈川県横浜市神奈川区神奈川 2-10-15

TEL 045-461-0941 担当/鈴木(営業部長)・武田(営業課長)

FAX 045-461-6305

Mail:yokoshin@crux.ocn.ne.jp

<http://www.yoko-shin.co.jp/>



記者 高橋

4. GK ギャラリー

第 109 回 GK 会

2010 年 5 月 13 日（木）に相模原ゴルフクラブで第 109 回 GK 会を開催しました。GK 会は当社のお取引先の皆様との情報交換と親睦を目的としたゴルフの会です。当日はさわやかな好天の中で、皆様プレイを楽しんでいらっしゃいました。優勝はベストグロス賞も獲得した片岡金属株式会社の片岡社長、第二位は泉メタル株式会社の松尾社長、第三位が土肥野金属株式会社の土肥野社長という結果でした。今回は純銀製優勝カップの取り切り戦も兼ねた大会となりましたが、こちらも片岡社長が勝利を収められました。次回は 2010 年秋に開催する予定です。 記者 日吉



5. 沿革

昭和 62 年 10 月に東京都世田谷区にある土地 400 坪を子会社の権田総業株式会社に売却しましたが、圧縮記帳を考え他に土地を買い求め、マンションをつくることにしました。そこで横浜線を初め小田急線、田園都市線の沿線各地で売却する土地を探しましたが、適当な土地がなかなか見つかりませんでした。たまたま厚木にある不動産会社に電話で売却物件があるか問い合わせると、厚木市戸室に 1017.2 平方m (307.7 坪) の土地があるというので、早速見に行き即日買う事を決めました。マンションをつくるにあたっては厚木市に開発行為申請の為の、諸申請書を提出し許可を得ることが必要でした。建築確認通知を得るまでにかかなりの日数を要しました。中でも日影となる近隣の住民や隣接する土地所有者全員にマンション建築の了解を得ることが許可の条件の一つと言われたので、該当する近隣の住宅や隣接する土地の所有者を個別訪問して説明しました。こうして了解を取りつけたマンションの計画は 6 階建てで、2DK12 戸、2LDK6 戸、3LDK11 戸の計 29 戸で、村田総業設計事務所が設計し、東海興業株式会社の施工で建築費と土地代金あわせて約 11 億円をかけ平成 2 年 2 月 1 日に着工し平成 3 年 2 月 20 日に竣工しました。

(80 周年誌 あゆみより)

6. 相場情報

1. 電気銅建値推移

10年4月…770円スタート（4月平均 779.0円）

10年5月…690円スタート（5月平均 670.5円）

10年6月…670円スタート（6月平均 638.1円）

10年7月…610円スタート

2. LME 在庫状況及び需給状況

LME 指定倉庫在庫は2010年4月初めに51万トン台で推移していたものが、徐々に減りはじめ、5月初めには50万トンを下回り、6月は45万トン台まで減少した。

銅需要は世界的に見て09年の1,710万トンに対し、10年は1,800万トン程と見込まれている。日本では09年84万トンに対し、自動車、液晶・半導体関連を中心に前年を上回ると見られ、10年は3万トンの微増で87万トンの見込みとなっている。

中国の銅地金輸入量は、例年の2倍に相当した昨年の300万トンからの減少は確実視されるものの、インフラ投資などの需要の急激な増加に対応するため海外市場からの調達は続き、本年も200万トン超の輸入量が見込まれている。ただし、中国の金融引き締めによる需要減退など先行き慎重な見方もある。

供給面では3月末にチリで起きた大規模な地震は直接的な影響はなく、チリ銅委員会は2010年第1四半期銅市場報告書で、生産量は対前年比6.5%増の574万トンと予測し、世界的にも微増すると見られている。

足元の需要は中国の旺盛な需要を中心にアジアの現物市場のひっ迫感が強いが、欧州経済をはじめ日本・米国などの先進国の実体経済はまだ弱く、銅に対する需要も弱いので、全体的に需給は均衡すると思われる。

3. 為替の見通し

ギリシャ問題で融資のリスクを回避しようとする影響から円・米ドルに対しユーロ安となり、6月29日には一時2001年末以来の安値水準となる1ユーロ=107.33円をつけた。だが7月1日、欧州中央銀行が昨年実施した1年物の資金供給オペの期日を迎えたが、ユーロ圏の金融機関の資金繰りに特段問題が無かった為、ユーロ買いの安心感を誘い、7月2日時点では1ユーロ=109.88円近辺となっている。

一方、米国景気は回復の動きを続けており2010年1－3月期の実質GDPは前期比年率3.0%の成長を実現した。ただし、5月・6月の雇用情勢の回復はスローであり、6月の雇用統計は失業率が9.5%、非農業部門雇用者数は前月比約12万5千人の減少となった。景気回復の腰折れが懸念され、米国株安・米ドル安が大幅に進んでいる。

中国では6月19日、人民元の切り上げを発表。円を含めたアジア通貨も買われやすくなっており、一時的にドル安の流れを進めている。

このような要因から、ドル安＝円高の動きとなっているが、米国景気は多少上下しながらも回復を継続している。経済指標に特段の変化が無ければ、7月には市場が落ち着く事も予想され、今後はドル高＝円安に推移していくと思われる。

4. 相場の見通しと予測

以上を総合して観ると、足元の銅相場は少し弱いですが、徐々に強くなると思われる。ただし、動きは一本調子ではなく上下するものと思われる。

短期予測（1M） LME \$6,000～\$6,700 為替 86～91円
銅建値 580～650円

長期予測（3M） LME \$5,900～\$7,600 為替 86～94円
銅建値 580～740円

記者 吉田 崇

